

S 式表現を利用したプレゼンテーションツールの作成

1. 背景

現在、プレゼンテーションツールには、パワーポイントに代表される GUI でプレゼン資料を製作していくものと、マジックポイントに代表されるテキストエディタでプレゼン資料を製作していくものが存在する。

後者のエディタでの原稿作成の利点は、テキストエディタの強力な検索機能や置換機能を利用し、効率的にプレゼン資料を製作できることである。本提案では、新しい後者のテキストエディタで資料を開発するタイプ(以下、エディタ s 型とする)のプレゼンテーションツールの開発を提案する。

2. 目的

中間形式として S 式表現を利用することにより、複数の形式に対応したプレゼンテーションツールを開発することを目的とする。

3. 開発の内容

Gauche (Scheme インタプリタ。Scheme はプログラミング言語の一種) から Cairo (二次元ベクトル描画ライブラリ) を利用するためのライブラリ Gauche-cairo を開発した。

Gauche-cairo を利用し、S 式の中間表現を解釈するプレゼンテーションツール *spresso* を開発した。

4. 従来の技術(または機能)との相違

S 式を利用したプレゼンテーションツールはこれまでも存在するが、Cairo を利用し、資料を別形式で配布できるようなものはこれまでに存在しない。

5. 期待される効果

一番に期待される事はユーザのプレゼンテーション資料作成コストの削減である。このコストの中には時間の他に、作成にかかるストレスなども含む。多くの場合、あまり本質的とは言えないプレゼンテーション資料作成という作業にかかるコストを軽減することで、業務/学業の効率化が期待される。

6. 普及(または活用)の見通し

開発成果は GPL で公開し、普及をはかる予定。利用者数に関してはひとまず 4 桁台を目指す。開発成果は <http://spresso.org/>にて公開予定。

7. 開発者名(所属)

徳永拓之(東京大学情報理工学系研究科修士課程)
